

2025年度新入職員研修を開催しました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2025年4月21日（月）、22日（火）に、東京の神保町にて新入職員研修を開催しました。2日間にわたり、社会人、医療人として必要な心構えやマナーについての研修を行い、私からも理事長講話にて、医療、介護者としての責任や、チームワーク、医療人としての使命感について話しました。

会場となった一橋講堂には、すでに4月から全国の各病院、施設で働く新入職員136名が集まり、新社会人として働く上での心構えについて学んでももらいました。私からの理事長講話に加え、花川病院がスポンサーを務めるプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の折茂武彦代表から「プロへの道は継続の先に開かれる」ことについてお話しいただきました。

はじめに午前の部では、人材育成のプロである株式会社ビーフォーシーの相部博子先生より「社会人への意識転換・医療者に求められる対人力」についての研修を行いました。



その後、健育会グループの歩みについて知ってもらうため、70周年記念式典の映像を放映しました。私からは理事長講話という形で、新入職員の皆さんに話をした、その内容を紹介します。



多くの病院や施設がある中から、私たち健育会グループを選んでくださり、ありがとうございます。末永く共に働いていけたら嬉しく思います。皆さんは4月から入職し、すでにそれぞれの病院、施設でオリエンテーションを受け、様々な話を聞いてきたかと思います。本日は社会人、医療人としての心得について改めて総括をしていきます。そして、皆さんが仕事に慣れてきた半年後に、再び私が話をする場を設けます。その際は、健育会グループがどのような考えを持ち、こういった社会貢献をしているのか、といった特殊性について話をする予定です。



本日はまず、一般的な医療、介護に携わる社会人としての心得について話します。私から皆さんにお伝えしたいことが3つあります。この3つだけは必ず守るようにしてください。1つ目は「社会人としての責任」についてです。皆さんは社会人になり、自身の行動に対して責任を取らなくてはならない立場となりました。責任から逃れるような態度を取っては、法的に罰せられることもあります。しかし皆さんは、まだ社会人になったばかりで全ての責任を取ることは難しい状態です。今の皆さんにできることは「できないこと」を曖昧にしないことです。「できない」と判断した場合は、しっかりと「まだ新人なので、できません。上司に相談して参ります」と患者さんやご利用者に明言するようにしてください。そしてすぐに、上司に報告することを徹底してください。その場限りの曖昧なことを言うてはいけません。そういった不明瞭な対応が、後々大きな問題に発展していきます。

「自分にできないことは、できないと相手に伝える」「すぐに上司に報告する」この2つが今の皆さんに課せられた責任です。必ず守るようにしてください。些細なすれ違いや認識のずれが、患者さんの命を奪う可能性にもつながります。「うっかりしていました」「忘れていました」という発想は、医療業界では通用しません。自分たちは人の命に携わる、厳しい職業に従事しているという自覚を持ってください。



次に皆さんに守ってもらいたいことは「チームワーク」です。健育会グループは「Our Team」という標語を掲げています。全職員参加型の経営をしていく、というものです。健育会グループは、職員全員で協力し合いながら経営を行っています。自分が所属する病棟のことだけではなく、別の病棟や施設の経営についても全職員が考え、より良い方向へ導いていく体制を取っています。全員が網の目のようになって病院の経営を支え、患者さんやご利用者に質の高い医療、介護を提供しています。この「Our Team」経営は、チームワークがあってこそ成り立ちます。チームワークを高めるために必要なことは、情報の共有です。伝えるべき人に情報を伝えることが重要になってきます。1つ目の話にもあったように「できないことを上司に報告する」ことも情報共有のひとつです。

また、規律正しい行動をし、就業規則を守ることもチームワークの中では大切です。例えば、体調不良の際には就業規則に則って報告をしてください。当たり前のように思うことを、当たり前のように行うことが、チームワークでは欠かせません。報告をし、情報共有をして規則正しいルールの中でチームワークを育む行動をしていれば、皆さんは「規律正しい医療人」に成長していきます。「規則」と「規律」は似ているようで異なります。

「規則」を守るだけでは「規律正しい医療人」とは言えません。「規律正しい医療人」には「使命感」があります。皆さんに守ってもらいたいことの最後のひとつは、この「使命感」についてです。規則を守って働くと同時に、医療、介護に携わる者としての「使命感」を育ててください。



皆さんの中には目的を持って医療、介護の仕事を選んだ方もいるでしょう。そんな皆さんにはすでに「使命感」が芽生えているはずです。一方で、まだ「使命感」を抱けていないという方もいるでしょう。卑下することはありません。皆さん一人ひとり、様々な理由を持って医療、介護の仕事に就いた経緯があるはずです。これから少しずつ「使命感」を育てていきましょう。そして、半年後には医療人であると自覚できるようになってください。難しいと感じたら、一人で抱え込むのではなく、私たちに頼ってもらってかまいません。私たちは皆さんをしっかりとサポートしていきます。

「使命感」を育てていくために必要なことは2つあります。ひとつは勉強です。皆さんは教科書で勉強してきたことを、これからは実際に患者さんや利用者と触れ合って実践していきます。学んできたことと、実際に経験することにはかなりの違いがあるはずです。皆さんが現場で実力を発揮できるような教育を、私たちはしっかり行っていきます。健育会グループは「使命感」を育てるための勉強会や、学会活動を積極的に行っています。研究発表会をする機会も多くあります。勉強は一生しなくてはなりません。日々の業務の中で勉強をすることは大変だと思います。しかし真摯に打ち込み、努力すれば確実に「使命感」は生まれてきます。



「使命感」を育てるために必要になってくる、もうひとつのことは「周りに評価される」ことです。患者さん、利用者、上司に評価されることが仕事の励みになります。健育会グループの中では、個人が褒められたことを、チームが褒められたこととして表彰するしくみがあります。毎月、各病院、施設から推薦される「病院の運営」や「質の向上」に著しい貢献をした職員の中から「最も輝いた1件」に「理事長賞」が授与されます。良い活動を表彰し、全員で共有するしくみを作り、皆さんの中の「使命感」が育っていくような環境を、私たちは整えています。「社会人としての責任」「チームワーク」「使命感」を意識し、日々の業務に打ち込んでいってください。

私の講話に続き、新入職員の方々にプロとしての意識を育んでもらうため、花川病院がスポンサーを務めるプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の折茂武彦代表に、ご自身の経験に基づいたプロフェッショナルについてのお話をさせていただきました。



僕は22歳から49歳までの27年間、プロのバスケットボール選手として活動してきました。2011年には「レバンガ北海道」というクラブチームを設立しました。当時40歳だった僕は、選手と経営者の両方を兼任していました。当時の経営状況は非常に厳しく、スポンサーもなかなか集まらず、従業員も少ない苦しい時期が続いていました。そんな時に手を差し伸べてくれたのが竹川理事長です。たまたま僕の特集が組まれたNHKの番組をご覧になり、お声がけくださいました。

竹川理事長は「東日本大震災で被災した際に、北海道の方々から温かいご支援をいただいた。その恩返しをしたい」と言って「レバンガ北海道」を支援してくださいました。当時は、健育会グループの花川病院を含め、スポンサーは3社、従業員は私を含めてわずか3名という状況でした。しかし、14年経った今、スポンサーは400社を超え、直近の平均観客動員数は6,300人、従業員も40名まで増えました。設立当初からずっと応援してくださった竹川理事長には、感謝の念しかありません。竹川理事長が手を差し伸べてくださらなければ、このクラブチームは存在しなかったでしょう。

僕は、日本一を3回獲得し、日本代表としても10年以上の経験を積み、数々の記録を打ち立ててきました。「何か特別なことをしているのですか」とよく尋ねられますが、特別なことは何もしていません。「当たり前のことを当たり前にしてきた」ただそれだけです。当たり前のことをせずに、特別なことを成し遂げることはできません。「努力すること」「頑張ること」は、当然のことなのです。スポーツ業界は非常に厳しい世界です。プロの選手は結果が全てです。結果を出せなければ、選手生命はすぐに絶たれてしまいます。華やかな世界に見えますが、常に結果を求められる、非常にシビアな世界なのです。技術がなければ、年齢とともにパフォーマンスが低下すれば、成果を出せなければ、容赦なく淘汰されます。当たり前のように努力を重ねなければ、生き残ることはできません。このような努力を、誰かに強制されて行うようでは、プロフェッショナルとは言えないでしょう。結果を出さなければ生き残れない、そのような厳しい世界でがむしゃらに戦うのがプロフェッショナルです。

さらに僕は、プロフェッショナルとは、誰かに価値を提供する存在であると考えています。例えば、選手であれば、チケットを購入してくれたファンの方々に最高のパフォーマンスを披露することが、価値の提供にあたります。皆さんは、医療、介護のプロフェッショナルです。患者さんやご利用者に価値を提供しなければならないという立場であることを、強く自覚してください。



プロとして長く戦ってきた中で、僕を最も成長させてくれたものは「挫折」「失敗」「敗北」という3つの経験でした。これらは、非常に苦しく、辛いものです。しかし、皆さんも人生において、必ずこの3つを経験する時が来ます。人生は、思い通りにはいかないものです。努力や勉強は、やればやった分だけ結果に繋がります。実際に行動しなければ、何も得ることはできません。しかし、行動すれば必ず「挫折」「失敗」「敗北」が付きまといます。そこで諦めるか、諦めないかは自分次第です。僕はこの3つと真摯に向き合い、多くのことを学びました。プロであっても「挫折」「失敗」「敗北」は避けられません。そこからどれだけ多くのことを学び取れるかが、プロフェッショナルになる上で重要なのです。「挫折」や「失敗」を経験した時、自分には何ができたのか、何をどうすれば良かったのか。苦しい経験から目を背けずに考えることが、成長へと繋がります。

一方で「現状維持」や「ネガティブな思考」は成長を妨げます。現状に満足した時点で、成長は止まってしまうのです。僕自身もネガティブな感情に陥ることはあります。しかし、55年間生きてきた経験上、ネガティブな考え方で問題が解決したことは一度もありません。人はネガティブに考えれば考えるほど「やめる理由」や「できない理由」を探してしまうものです。逃げ続ける先に、安らぎはありません。「挫折」「失敗」「敗北」から目を背けず、逃げ出すことなく、多くのことを前向きに学び取ってください。



僕は「人」「想い」「信頼」という3つの要素を大切にしています。皆さんは、患者さんを大切にできる人、患者さんの気持ちに寄り添える人、そして患者さんに心から信頼される人を目指してください。僕は本日、北海道からやって来ました。早朝3時に起床し、朝5時のスポーツ番組に出演した後、急いで8時発の飛行機に乗り、こちらへ向かいました。普段の僕であれば、このような過密なスケジュールを組むことはありません。しかし、僕は竹川理事長に深い感謝と恩義を感じています。だから僕はこの場に駆けつけたのです。竹川理事長には、14年もの長きにわたり「レバンガ北海道」を支援していただいています。長い年月をかけ、誠実に信頼関係を築き上げてきたからこそ、僕と竹川理事長の間には、揺るぎない絆が生まれたのです。時間をかけて大きな信頼を築くことが、いかに大切であるか、皆さんにも理解をしてもらいたいです。「人」「想い」「信頼」は、決して簡単に、そして短時間で築けるものではありません。竹川理事長のように「人」「想い」「信頼」を大切にできる人を目指してください。人と人との繋がり、そしてその想いを大切にし、信頼関係を積み重ねていくことは、皆さんの人生において必ず大きな糧となるはずです。



何かをやり続けるということは、時に困難を伴うものだと思います。僕も、日本代表になりたい、日本一になりたいと強く願っていました。しかし、ただ思っているだけでは、それを実現することはできません。しかし、続けたからといって、必ず目標を達成できるという保証もありません。それでも、僕は努力を重ね続けました。なぜなら、続けない限り、その行動が「正解」だったのか「不正解」だったのかさえ、判断することができないからです。続けていく中で初めて答えが見つかり、次の段階へと進むことができるのです。何度も繰り返すように、何かを継続することは容易ではありません。僕にも、練習先の体育館へ向かう足が重い日がありました。皆さんも、仕事へ行きたくないと感じる日が出てくるかもしれません。しかし、僕は継続することを諦めませんでした。「今日も行かなければ」「今日もやらなければ」と自分に言い聞かせ、毎日努力を続けました。だからこそ、日本一になることも、日本代表になることもでき、27年という長い間、現役のプロ選手として活躍することができたのです。継続する力は、成長をする上で極めて重要です。困難な道のりかもしれませんが、どうか諦めずに挑戦し続けてください。皆さんの人生は一度きりしかありません。しっかりと目標を持ち、努力し続けてください。皆さんが健育会グループで、立派な医療人として成長されることを心から願っております。

午後の部では、近隣の如水会館と神田カンファレンスルーム内の4会場に分かれて、ディスカッション形式のオリエンテーションを行いました。



相部博子先生、大内裕香先生、会田愛子先生、藤澤美奈子先生の4名の講師陣がそれぞれ各会場を担当し、医療者の対人力、組織人に必要な6つの意識、仕事の進め方、e-mailのマナー、コミュニケーション向上のスキルについての研修を行いました。



研修2日目でも、引き続き4つの会場に分かれ、高齢者への接し方、医療者に相応しい言葉づかい、電話での対応などについてディスカッションや発表を交えながら多くの成功体験を積みました。



この研修を通して、チームワークの大切さや、情報を共有することの重要性を実感し、責任を持って日々研鑽に励んでください。半年後、使命感を持った立派な医療人へと成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。